

多発を認めています。「福島における小児甲状腺がんの多発が放射線の影響だとは今の段階では断定できていない」と書く方がより妥当ではないでしょうか。

3, (しかしながら、科学的な説明でも払拭できない不安が残るのが放射能問題の難しさであり、行政もそこにしっかりと向き合っていく必要があると考えています。)

これでは、まるで、放射線の健康影響に不安を覚えている人は、科学的思考ができない人と言っているように聞こえます。

福島第一原発事故1年4ヶ月経過した頃は、広報かしわには以下のような「放射線だより」も載せていました。

(広報かしわ 2012年7月1日号掲載) 東京大学環境安全本部・飯本武志准教授監修の「キホンのキ!」抜粋

「ICRPは、一度に100ミリシーベルトまで、あるいは1年間に100ミリシーベルトまでの放射線量を積算として受けた場合でも、線量とがんの死亡率との間に比例関係があると考えて、合理的に達成できる範囲で線量を低く保つよう勧告しています。

これが放射線防護の基本です。 明確な証拠がないから「大丈夫」と済ませることなく、放射線の「量」の感覚を正しく持ちつつ、「予防原則」に従って、状況に応じて上手にリスクを低減することが大切です。」

下線部分に書かれているように、「予防原則」に従って、放射能対策に取り組んでいく姿勢を表すような「市長室だより」をお願いします。

以上